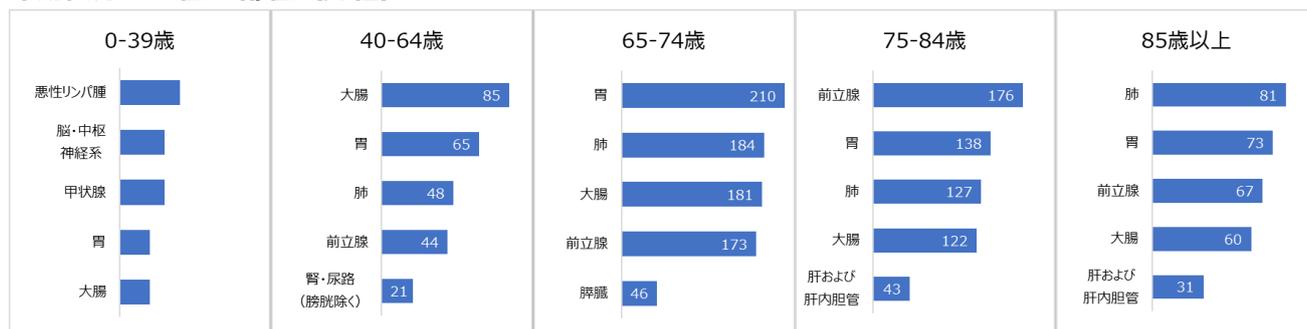
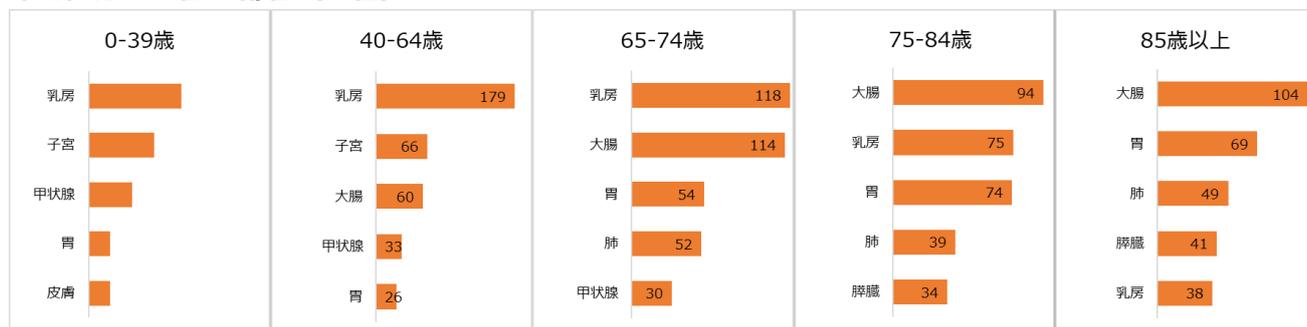


全国がん登録から見た鳥取県のがん罹患の現状（2020年）

年齢区分別上位5部位（男性）



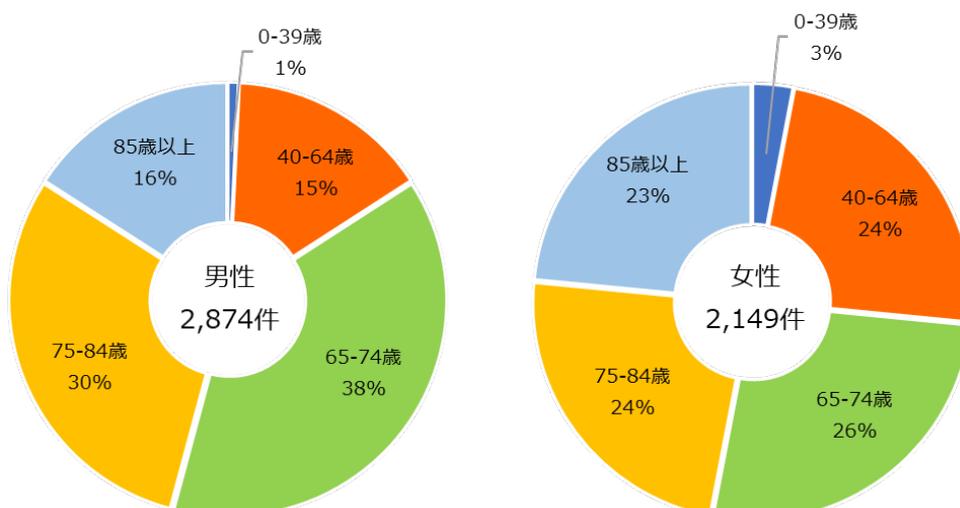
年齢区分別上位5部位（女性）



男性の0-39歳代では、悪性リンパ腫が最も多く、次いで脳・中枢神経系、甲状腺、胃、大腸。40-64歳代では、大腸が最も多く、次いで胃、肺、前立腺、腎・尿路。65-74歳代では、胃が最も多く、次いで肺、大腸、前立腺がおしなべて多く、次いで膵臓の順。75-84歳代では、前立腺が最も多く、次いで胃、肺、大腸がおしなべて多く、次いで肝臓の順。85歳以上では、肺が最も多く、次いで胃、前立腺、大腸、肝臓の順。

女性の0-39歳代では、乳房が最も多く、次いで子宮、甲状腺、胃、皮膚の順。40-64歳代でも、乳房が最も多く、次いで子宮、大腸、甲状腺、胃の順であり、65-74歳代でも、乳房が最も多く、次いで大腸がおしなべて多く、胃、肺、甲状腺の順。75-84歳代では大腸が最も多く、次いで乳房、胃がおしなべて多く、肺、膵臓の順であり、85歳以上でも、大腸が最も多く、次いで胃、肺、膵臓、乳房の順。

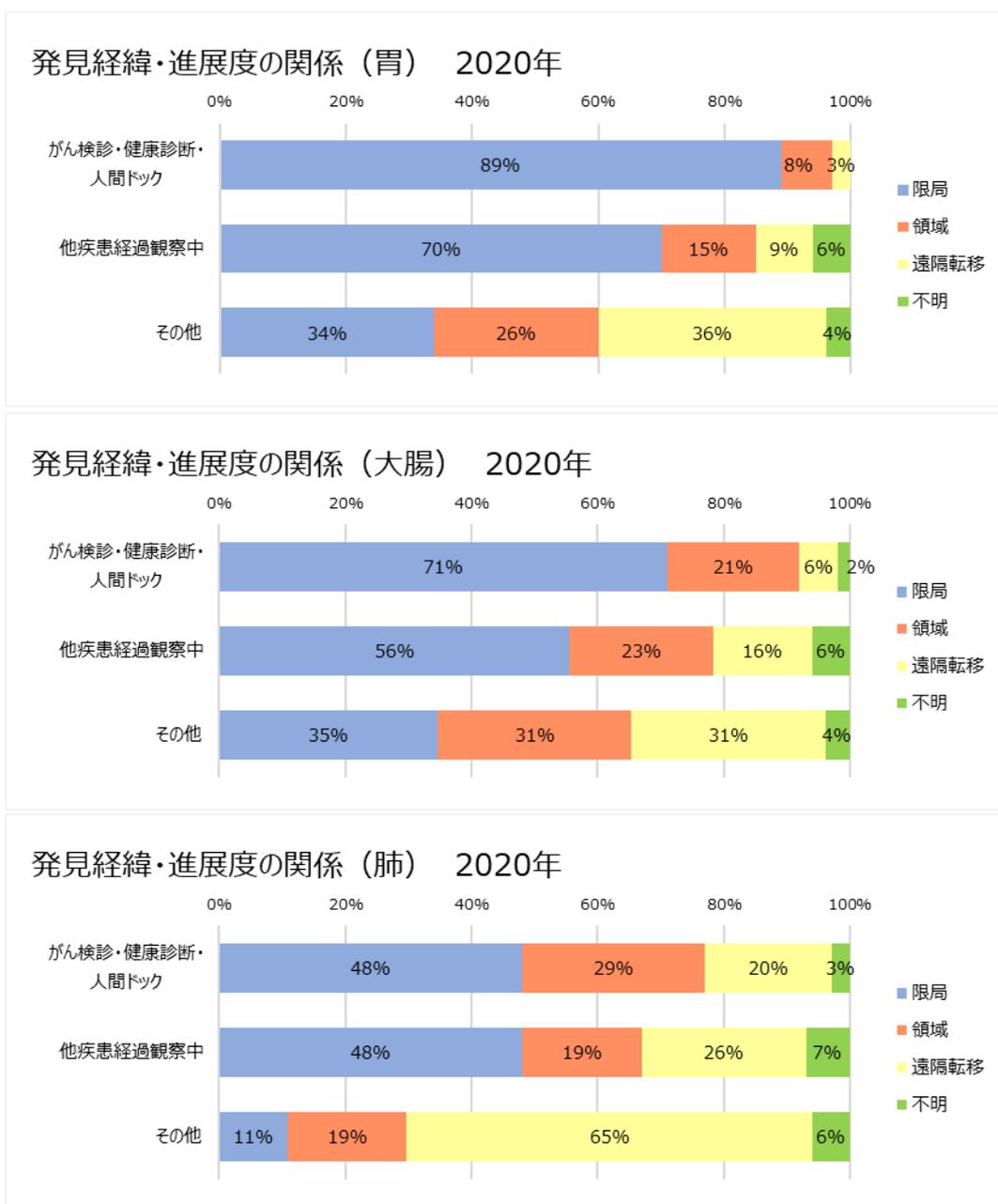
年齢5区分割合（%）



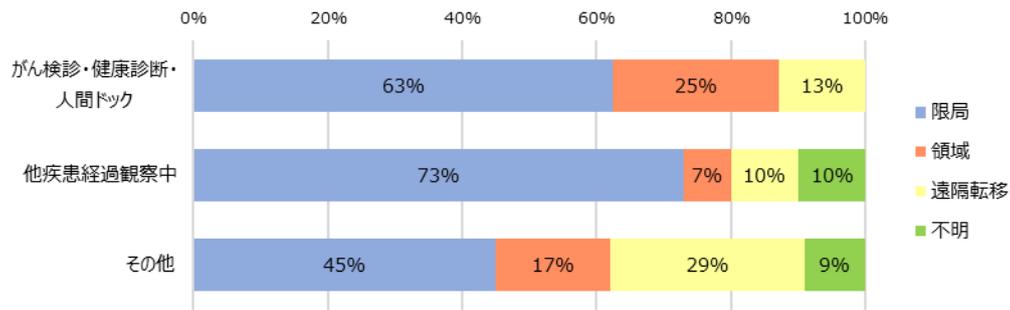
発見経緯と進行度の関係から、がん検診・人間ドック・健康診断などのがん予防効果の疫学的検証

ほとんどの部位でがん検診・人間ドック・健康診断などによるがん発見例において、いわゆる早期がんに相当する限局割合が多く、遠隔転移の割合が少ないことが認められていますが、肺においては遠隔転移の割合が20%と他の部位に比べ高い値を認めています。

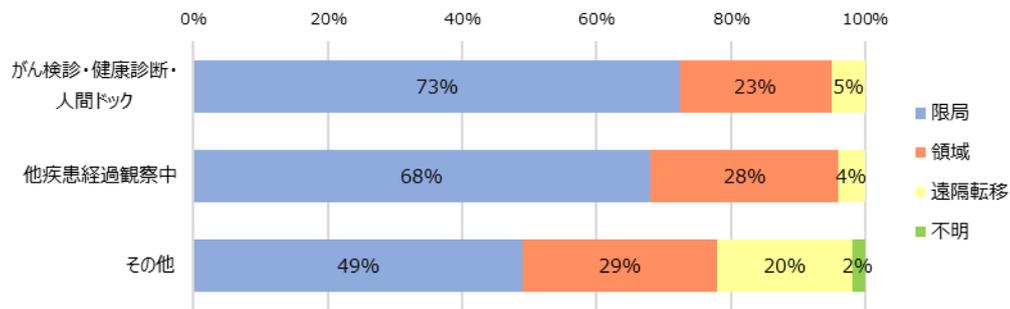
限局割合は、がん検診・人間ドック・健康診断によるもので胃が最も高く89%、つづいて子宮73%、大腸・前立腺71%と続く。他疾患経過観察中によるものでは肝臓が73%と最も高く、がん検診・人間ドック・健康診断の63%より高くなっている。



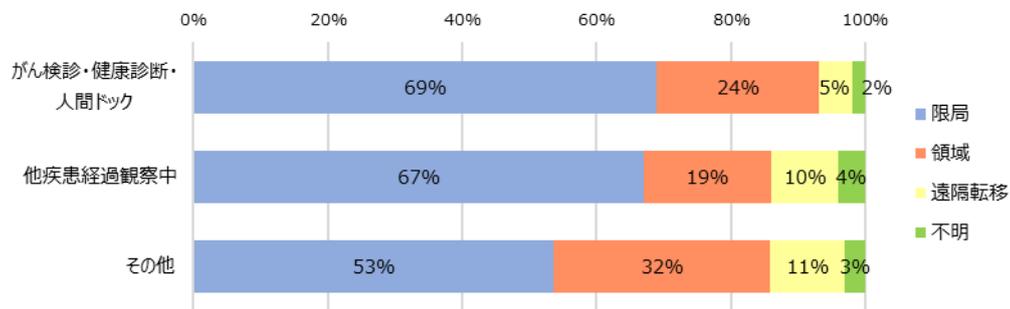
発見経緯・進展度の関係（肝臓） 2020年



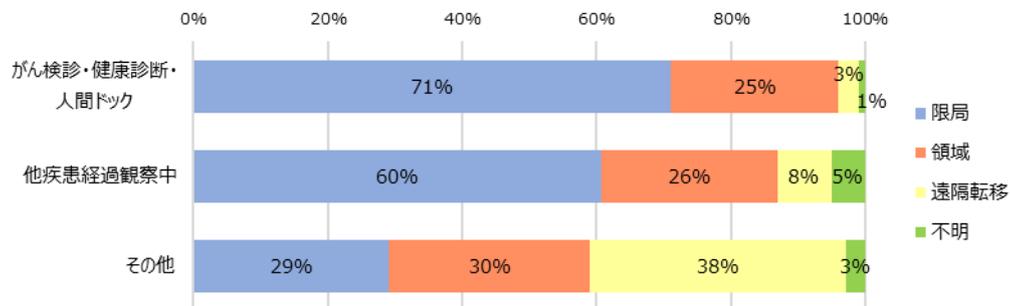
発見経緯・進展度の関係（子宮） 2020年



発見経緯・進展度の関係（乳房） 2020年



発見経緯・進展度の関係（前立腺） 2020年

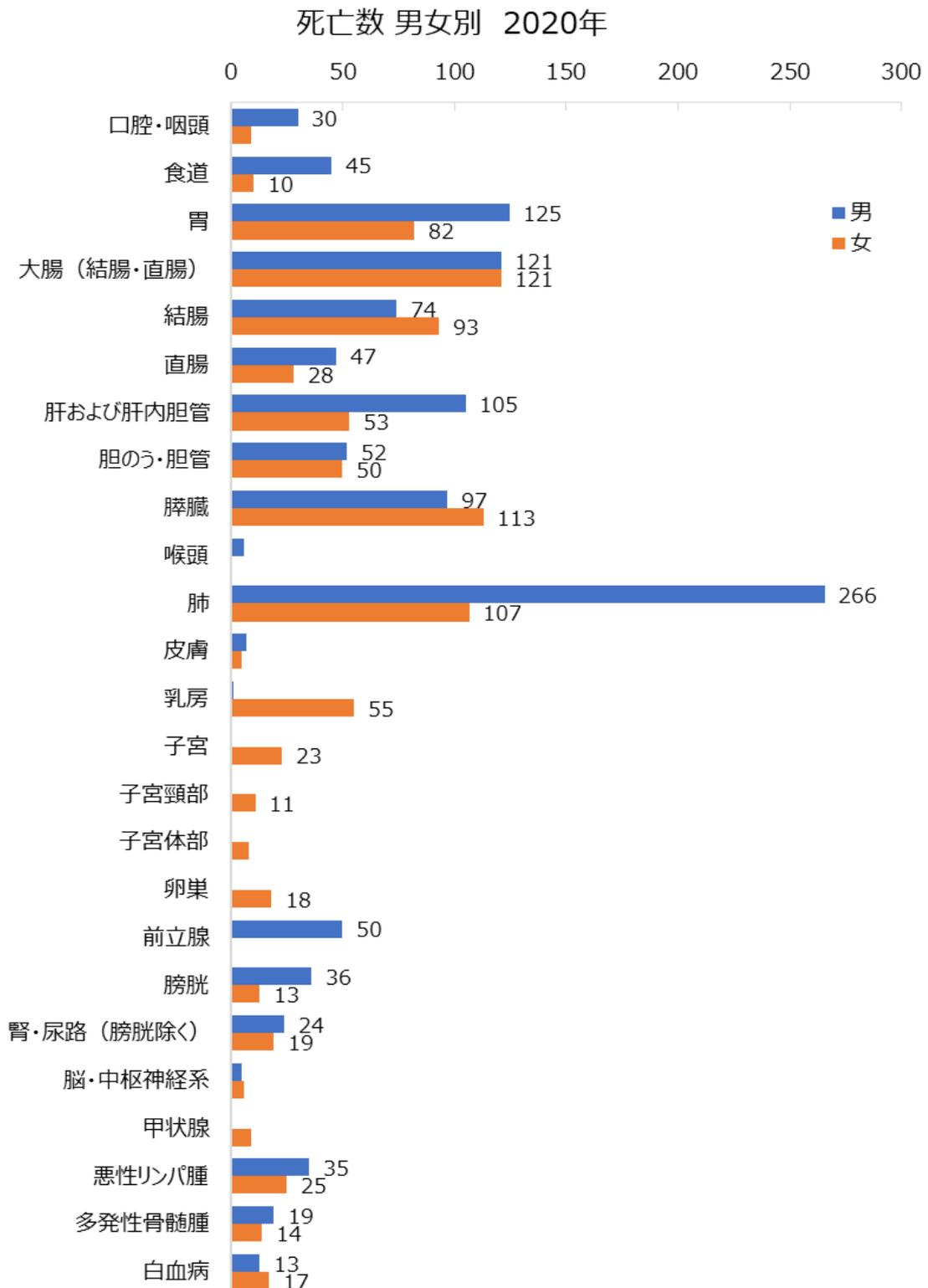


* 参考資料 *

死亡統計から見た鳥取県のがん死亡数の現状

鳥取県において、がんを原因として死亡した者の数は、男性1,083人、女性796人、合計1,879人となっている。

部位別には、男性は肺（266人、24.6%）が最も多く、次いで胃（125人、11.5%）、大腸（121人、11.2%）の順となっている。また、女性では大腸（121人、15.2%）が最も多く、次いで膵臓（113人、14.2%）、肺（107人、13.4%）、胃（82人、10.3%）の順となっている。



年齢調整死亡率 全国比較 2020年

